海女サミット2015 in 鳥羽

実績報告書

日時：平成27年11月６日（金）・７日（土）

場所：鳥羽商工会議所、答志コミュニティアリーナ

主催：海女サミット実行委員会
　　一般財団法人自治総合センター

目　　次

「海女サミット 2015 in 鳥羽」全体概要……1

日韓海女フォーラム

あいさつ……3

記念講演……4

パネルディスカッション……4

交　流　会……5

海女サミット

記念放流……6

フォトアピール……7

あいさつ……7

海女さんセッション……7

全国海女大いに語る……8

大会宣言……8

参 考 資 料

当日配布パンフレット……10

報道実績……14

全　体　概　要

【目　的】

日本には約 2,000 人の海女が存在すると言われ、鳥羽志摩地域では全国最多となる約 700 人の海女が操業をしています。しかし、海女の高齢化による担い手不足や漁獲量の減少により、海女そのものの衰退が危惧されます。

このことから、海女漁業の振興や海女文化の保存・継承、更にはユネスコ無形文化遺産登録に向けた取り組みを進めることを目的として、鳥羽市において海女サミット 2015 を開催します。

【スケジュール開催場所】

11 月 6 日(金)

○日韓海女フォーラム

・13：00 ～ 13：15　開会あいさつ《鳥羽商工会議所かもめホール》
・13：15 ～ 14：15　記　念　講　演《　　〃　　》
・14：30 ～ 16：00　パネルディスカッション《　〃　　》

○海女交流会

・18：30 ～ 20：30　交　　流　　会《答志コミュニティアリーナ》

11 月 7 日(土)

○海女サミット

・ 8 ：30 ～ 9 ：45　記　念　放　流《大間の浜》
・ 9 ：30 ～ 10：15　フォトアピール《答志コミュニティアリーナ》
・10：15 ～ 10：30　開会あいさつ《　　〃　　》
・10：30 ～ 11：15　海女さんセッション《　〃　　》
・11：25 ～ 12：35　全国海女大いに語る《　〃　　》
・12：35 ～ 12：45　大　会　宣　言《　　〃　　》

【主　催】

海女サミット実行委員会、一般財団法人自治総合センター

【協　力】

海女振興協議会

【後　援】

総務省、水産庁、文化庁、環境省中部地方環境事務所、三重県、三重県教育委員会、
鳥羽市、鳥羽市教育委員会、志摩市、志摩市教育委員会、
鳥羽磯部漁業協同組合、三重外湾漁業協同組合、鳥羽市観光協会、志摩市観光協会、
鳥羽商工会議所、志摩市商工会、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構、
伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会、海の博物館

【参加者実績】

○フォーラム 220 人
○交流会 220 人
○放流 190 人
○サミット 200 人
　※県外海女 36 人／県内海女 114 人
　　（合計：150 人）

＜海女内訳＞

岩手 3、千葉 1、静岡 3、和歌山 4
徳島 2、石川 4、鳥取 2、京都 1
福井 8、山口 2、福岡 2、長崎 4
三重 114、韓国 4（済州 2、釜山 2）

日韓海女フォーラム

1日目／11月6日（金）鳥羽商工会議所かもめホール

海女サミット1日目は、鳥羽商工会議所かもめホールを会場に、「日韓の親しい交流のために」と題したフォーラムを開催しました。フォーラムには、岩手・千葉・静岡・三重・京都・和歌山・石川・福井・鳥取・山口・徳島・福岡・長崎の13府県や韓国からの海女さんの他、海女文化を研究する関係者等220人の参加がありました。

フォーラムでは、大阪市立大学の伊地知紀子（いぢちのりこ）教授と、韓国海洋大学の安美貞（アンミジョン）教授による海女同士の交流をテーマにした記念講演の他、日韓の現役海女や漁業関係者によるパネルディスカッションが開催され、各地域の海女漁に関する現状や課題等について話し合われました。

記念講演及びパネルディスカッションの概要については、次のとおりです。

＜主催者あいさつ＞

海女サミット実行委員会　会長　石 原 義 剛

海女サミット実行委員会の石原義剛会長から、サミット開会にあたっての挨拶をさせていただきました。挨拶の中では、海女サミットを6回開催してきた中で、過去最多の海女さんが参加してもらったことに対する御礼の言葉と、本サミットや伊勢志摩サミットを通じて、海女文化を世界へ発信していきたいという話がありました。

＜来賓あいさつ＞

鳥羽市長　木田久主一 氏

開催地である木田久主一鳥羽市長から、サミット開催にあたって歓迎のご挨拶をいただきました。ご挨拶の中では、市長自らが済州へ行った際の思い出話を踏まえて、今後、ユネスコ無形文化遺産登録へ向けた取組みを進めていくために、日韓の海女が協力して取り組んでいくことが大事であるとの話がありました。

＜記念講演①＞

・演題：「韓国海女との親しい交流」
・演者：大阪市立大学　教授　伊 地 知 紀 子 氏

伊地知先生からは、自らが済州島へ出向き、済州の海女さんと交流してきた体験談を踏まえて、現地の海女の暮らしの他、今後交流を進めていく上でどのような形が望ましいのかをお話いただきました。

＜記念講演②＞

・演題：「日本海女との親しい交流」
・演者：韓国海洋大学　教授　安美貞 氏

安先生からは、日韓海女の交流にかかる経過についてお話をいただいた後、海女同士が交流することの意義や、今後の交流に期待する等、実際に鳥羽市や志摩市で行なわれている交流の際の写真等も交えてお話いただきました。

＜パネルディスカッション＞
・テーマ：「日韓海女の交流を進めるために」
・コーディネーター：三重大学教授／塚本　明 氏、東義大学教授／劉亨淑 氏
・パネリスト：下道里契長／林伯衍 氏、済州海女／金英愛 氏・呉福女 氏
釜山海女／任徳伊 氏・金正字 氏、海女(菅島)／木下克代 氏
海女(和具)／三橋まゆみ 氏
鳥羽磯部漁協常務理事／藤原隆仁 氏
三重大学学生／中村　萌 氏、水野夢子 氏

パネルディスカッションでは、「日韓海女の交流を深めるために」をテーマとして、日韓海女の他、漁業関係者、7月と9月に実施された日韓学生交流へ参加した三重大学の学生2名がパネリストとして参加しました。ディスカッションでは、三重大学の塚本教授、東義大学の劉教授のコーディネートにより進められ、日韓両国の海女漁業の現状や、海女小屋等の環境についてディスカッションされました。日本側の海女からは、「文化の違いはあるが、海女という職業でつながっており、互いに行き来して交流することで、自然と国同士のつながりも良くなると思う。」と期待を込めた意見が出されると、韓国側の海女からも「言葉は通じないが、身振り手振りで海女さん同士の会話ができる。」と話がありました。また、日韓学生交流事業に参加した三重大学生からは、「日韓は文化が似ているので、若い世代から仲良くしていけば、より交流が深まる。」と学生同士の交流にも期待を込めた意見がありました。

パネルディスカッションの様子

内閣総理大臣夫人　安 倍 昭 恵 氏

また、安倍昭恵内閣総理大臣夫人も途中から参加し、「海の環境が荒れている現状は人類にとって深刻な問題であり、海女さんを通じて多くの人にこの現状を知ってもらえると良い。日韓が一緒になって海女の力、女性の力を発揮して行動していってほしい。」と激励の言葉をいただきました。

交　流　会

1日目／11月6日(金) 答志コミュニティアリーナ

1日目の夜には、答志コミュニティアリーナへ会場を移し、海女さんをメインとした交流会を開催しました。交流会では、答志島旅館組合の協力をいただき、地元で獲れた新鮮な魚介類を使った料理を提供し、海女同士の交流を深めることができました。交流会には、来賓として安倍昭恵内閣総理大臣夫人、鈴木英敬三重県知事、武田美保三重県知事夫人、木田久主一鳥羽市長、大口秀和志摩市長などを迎え、大変盛り上がった交流会となりました。

大漁旗で皆さんを歓迎

地元の皆さんによる余興

海女サミット

2日目／11月7日(土) 答志大間の浜

サミット2日目は、答志町にある大間の浜を会場に、アワビ稚貝の記念放流を行ないました。当日は、地元海女20人が来賓の安倍昭恵内閣総理大臣夫人や鈴木英敬三重県知事、木田久主一鳥羽市長からクロアワビとメガイアワビの稚貝を受取り、約30分かけて5,000個の稚貝を放流しました。

来賓の皆さんから稚貝を配布

受け取った稚貝を持って海へ

2日目／11月7日(土) 答志コミュニティアリーナ

記念放流終了後、答志コミュニティアリーナへ会場を移し、鈴木英敬三重県知事、木田久主一鳥羽市長の挨拶の後、「世界に海女がはばたくために」と銘打ち、全国若手海女による

セッションや、海女小屋で囲炉裏を囲む雰囲気の中で、全国のベテラン海女が各地域の現状を話し合う「円卓会議」を行ないました。

海女写真家　古谷千佳子さんフォトアピール

会場では、海女写真家の古谷千佳子さんが撮影した鳥羽志摩の海女さんを、フォトアピールという形で上映。来場者に、海女の日常等についてアピールしました。

三重県知事　鈴 木 英 敬 氏

鈴木英敬三重県知事からは冒頭に挨拶をいただき、「海女サミットを通じて、海女が夢と希望を持って頑張っていけるように応援したい。みんなで盛り上げていきましょう。」とお話いただきました。

＜海女さんセッション＞

「新しい海女の時代に向かって」をテーマにした全国の20代～30代の若手海女によるセッションでは、海女サミット実行委員会の石原義剛会長のコーディネートの元、参加した海女さんから「海女が獲ったものをブランド化し、ＰＲしていきたい。」「海女は天職。これからも海女を続けていきたい。」等の意見が出されました。また、京都の海女さんからは、「1日最高で約30万円になることもある。厳しい環境であるが、自分で稼ぐ楽しみを覚えてほしい。」と他の若手海女さんに応援の言葉を送ると、長崎県の海女さんからは、「楽しいだけでは生活ができないので、漁の方法を工夫するようになった。」と海女漁を始めてからの経験談が語られました。

全国若手海女によるセッション

＜全国海女大いに語る＞

次に開催された全国のベテラン海女による「円卓会議」では、海女小屋の雰囲気を演出した中で、安倍昭恵内閣総理大臣夫人も参加し、活発な意見が交わされました。参加した海女さんからは、地域にある海女漁の違いや、海女を続けていることの魅力等の話があった他、2016年5月に開催される伊勢志摩サミットに向けて海女文化をもっとＰＲしてほしいという声も挙がりました。安倍昭恵内閣総理大臣夫人からは、「海女さんたちが年齢を重ねても元気に活動する姿に感動した。伊勢志摩サミットでも、何等かの形で海女の文化を世界に紹介したい。」という言葉が聞かれました。

ベテラン海女による円卓会議

大 会 宣 言

２日間に渡って開催された海女サミットの最後には、里海を創る海女の会の松本のり子会長が「全国的に海女は資源の減少、高齢化、後継者不足等、海女文化継承の危機にあることを自覚し、ここに集まった海女全員で更に交流を深め、この難局を乗り切るため力を合わせ頑張ろう。」と大会宣言を読み上げました。

里海を創る海女の会会長　松本のり子 氏

参 考 資 料

共に築こう 新たな未来を
日韓交正常化50年

海女文化を
ユネスコ無形文化遺産に

海女サミット

Ama Summit

全国の海女が鳥羽に集合!!

2015 IN 鳥羽

第1日目

11月6日 金

■日韓海女フォーラム 13:15～14:15
■日韓海女の集い 14:30～16:00
(鳥羽商工会議所かもめホール)

第2日目

11月7日 土

■アワビ稚貝記念放流 8:30～ 9:30
■海女サミット2015 10:15～13:00
(答志コミュニティアリーナ)

海女漁の行われている県

岩手・宮城・千葉・静岡・三重・京都・神奈川
和歌山・石川・福井・鳥取・山口・徳島・福岡
長崎・佐賀・大分・熊本・鹿児島・済州島（韓国）

【主催】海女サミット実行委員会、一般財団法人自治総合センター　【協力】海女振興協議会

【後援】総務省、水産庁、文化庁、環境省中部地方環境事務所、三重県、三重県教育委員会、鳥羽市、鳥羽市教育委員会、志摩市、志摩市教育委員会
鳥羽磯部漁業協同組合、三重外湾漁業協同組合、鳥羽市観光協会、志摩市観光協会、鳥羽商工会議所、志摩市商工会
公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会、海の博物館

■お問合せ先　海女サミット実行委員会(鳥羽市役所 農水商工課内)　TEL:0599-25-1167　FAX:0599-26-2810　✉:suisan@city.toba.mie.jp

シンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです／本事業は、公益財団法人日韓文化交流基金の助成を受けています

海女サミット 2015 IN鳥羽

Ama Summit

海女サミット開催に当たって

海女サミット実行委員会会長　　石原 義剛

第６回海女サミットを三重県鳥羽市答志島で開催することができました。全国から集まってくださった海女さんと関係者の皆さまにお礼申しあげます。

来る 2016 年５月には、伊勢志摩サミットが志摩の地で開かれますが、その決定がなされるに当たっては、自然景観の素晴らしさとともに、伊勢神宮や海女文化の豊かな歴史が、世界から訪れる大切なお客様を迎えるに十分な地であることを示しているからであります。

中でも、海女文化は、現代社会において自然と共生し、持続可能な暮らしを実現する好適なモデルとしての評価を得つつあります。必ずや伊勢志摩サミットに集う世界の人々も、海女文化に賞賛の言葉を送ることでしょう。

すでに海女文化は三重県および石川県の無形文化財に指定されました。今日、ここに集まった全国海女の皆さまが、このことに自信と誇りをもって、さらに海女文化の振興と発展のため努力されんことに期待します。また、関係各位に力強い支援をお願いいたします。

全国の海女さんを歓迎します

鳥羽市長　木田 久主一

「海女サミット 2015in 鳥羽」の開催にあたり、開催地を代表しまして歓迎の挨拶を申し上げます。

平成 21 年度から始まり今年で第６回を迎える「海女サミット」が鳥羽市で開催されることを大変うれしく思います。また、韓国済州道や釜山市をはじめ、日本国内各地から 150 人を超える海女さん達に遠路はるばる鳥羽市までお越しいただきましたことを心から感謝申し上げます。

さて、本市は養殖真珠に世界で初めて成功した地として知られていますが、海女の活躍無くして養殖真珠の成功は無かったと言われています。海女は、養殖で使用するアコヤ貝を海底に潜り採取するとともに、核入れした貝を海中に戻す作業を行うなど、海女の存在が欠かせなかったそうです。現在では、海女は水産業をはじめ観光産業の発展にも寄与する本市の重要な存在になっています。

本市は日本で一番海女の多いまちですが、人口減少や高齢化にともない、その数は年々減少しています。海女漁を後世に引き継ぐための取り組みを推進していくとともに、来年開催される伊勢志摩サミットを契機に、3,000 年以上続く海女漁の歴史や文化についても、その魅力を世界に向けて大きく発信していきたいと考えています。

最後に、今回お集まりいただいた皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

11月6日 金 鳥羽商工会議所かもめホール

○フォーラム「日韓の親しい交流のために」

- 13:00 ~ 13:15　開会あいさつ
- 13:15 ~ 14:15　記念講演①「韓国海女との親しい交流」
  講師　伊地知 紀子（大阪市立大学教授）
  記念講演②「日本海女との親しい交流」
  講師　安美貞（韓国海洋大学教授）
- 14:30 ~ 16:00　パネルディスカッション「日韓海女の交流を進めるために」
  コーディネーター
  塚本 明（三重大学教授）
  劉亨淑（韓国東義大学）
  パネリスト
  ＜韓国側＞林伯衍（下道里契長）
  済州・釜山の海女さんも参加予定
  ＜日本側＞藤原 隆仁（鳥羽磯部漁業協同組合常務理事）
  海女さんも参加予定
- 16:00　閉会

11月7日 土 答志コミュニティアリーナ

○海女サミット「世界に海女がはばたくために」

- 8:30 ~ 9:45　記念放流（大間の浜）
  海女さんによるアワビ稚貝の放流
- 9:30　フォトアピール　古谷千佳子　写真上映
- 10:15 ~ 10:30　開会あいさつ
- 10:30 ~ 11:15　海女さんセッション
  「新しい海女の時代に向かって」
  全国の若手海女さん達が登場し、語り合います
- 11:25 ~ 12:35　全国海女大いに語る
  全国の海女さん達が登場し、語り合います
- 12:35 ~ 12:45　大会宣言
  海女代表による発表
- 12:45　閉会

第６回　海女サミット大会宣言（案）

今日、三重県鳥羽市答志島に、全国から 150 人の海女代表が集まって、第６回海女サミットが開催されました。

平成 26 年には、画期的なことですが三重県と石川県で、日本ではじめて海女文化が認められ、県の重要無形文化財に指定されました。日本の海女の文化的社会的な価値が広く認められるようになってきました。これは継続してきた海女サミットの大きな成果の一つであります。

海女が単なる素潜り漁をする女性の伝統技術として評価されるだけでなく、持続可能な社会づくりのモデルとして見直され、また、海なる自然資源と共生する存在として、脚光を浴びつつあります。

しかし、全国的に海女は、資源の減少、高齢化、後継者の少ないことなど、厳しい海女文化継承の危機にあることを自覚せねばなりません。

この時にあたり、ここに集まった総ての海女は、さらに交流を深め情報を交換し、多くの内外の人々に理解と支援を訴えながら、この難局を乗り切るため力を合わせ、助け合いながら、誓い合って進もうと決意しました。

みんなで頑張りましょう。

平成 27 年 11 月７日

第６回　全国海女サミット参加者一同

代表　松本のり子

報 道 実 績

＜11月３日＞

（伊　勢　新　聞）海女文化で魅力発信「海女サミット」６日開幕
（毎日新聞三重版）鳥羽で「海女サミット」６、７日文化の保存・継承へ
（中日新聞三重版）日韓の海女集い交流６日・から鳥羽で講演や討論会

＜11月７日＞

（伊　勢　新　聞）海女サミットが開幕・鳥羽「日韓一緒に力発揮を」
（朝日新聞三重版）日韓の海女語り合う・鳥羽で「サミット」始まる
（中日新聞三重版）同じ職業交流深める・海女サミットで日韓関係者
（中日新聞夕刊）たくましく育ってね・鳥羽海女サミットアワビ稚貝放流
（毎日新聞三重版）日韓の「海女さん交流」安倍首相夫人「一緒に環境守って」
（読売新聞三重版）日韓海女鳥羽で交流・文化の保全、継承へサミット

＜11月８日＞

（伊　勢　新　聞）文化継承へ助け合おう・海女サミット閉幕日韓海女、大会宣言
（朝日新聞三重版）鳥羽でサミット２日目・アワビ稚貝放流、座談会も
（中日新聞社会面）海女文化継承へ協力・鳥羽宣言採択しサミット閉幕
（読売新聞社会面）日韓海女ちゃん大集合！伊勢志摩サミットあと200日
（中日新聞三重版）新人海女が先輩と交流・鳥羽でサミットアワビ稚貝放流
（毎日新聞三重版）海女サミット閉幕・鳥羽首相夫人ら記念放流
（産経新聞三重版）日韓の海女ら鳥羽でサミット文化保存を協議
（朝日新聞社会面）海との共生願い放流鳥羽で「海女サミット」

※新聞社のみ一部抜粋

「海女サミット 2015 in 鳥羽」実績報告書

平成27年12月発行

海女サミット実行委員会

三重県鳥羽市鳥羽三丁目1-1

（鳥羽市農水商工課内）

TEL：0599－25－1167

※このシンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会から拠出金を受けて実施するものです。
本事業は、公益財団法人日韓文化交流基金の助成を受けています。